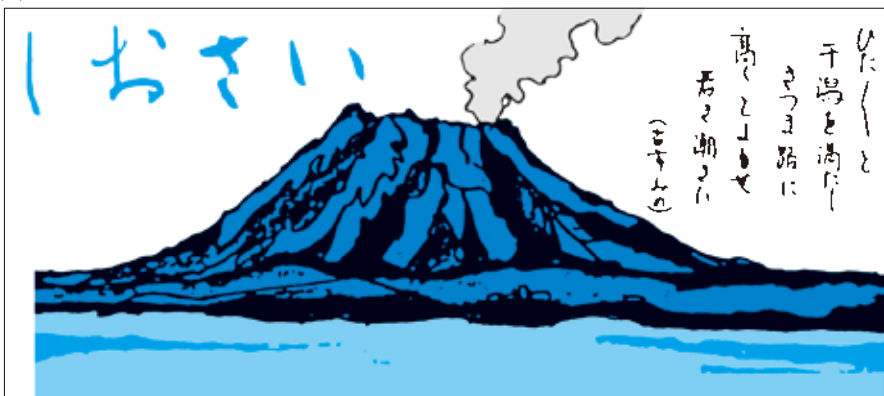




編集発行人

鹿児島大学医学部附属保健婦学校
鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
同窓会(しおさい会)

事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域看護・看護情報学講座内
連絡先 会長 藤野 瑠美
電話 [REDACTED]



平成 28 年 5 月 14 日 しおさい会セミナー開催

第十九回しおさい会総会のご案内

日時：八月五日(土) 会場：城山観光ホテル
受付時間：午前九時三十分～ 会費：六千円

今年から、全ての会員に会報を送付しておりませんので、身近な会員の中に、届いていない方がいる場合は、事務局へご連絡下さい。
最後に、皆さまにとりまして健康で幸せな一年でありますように願っています。

平成二十九年一月



ごあいさつ

会長

藤野 瑠美

(S46卒)

今年もどうぞよろしくお願いいたします。
皆様におかれましては、お変わりなくお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。いつも「しおさい会」にご理解とご協力を頂き感謝いたします。

今年の正月三日は、暖かく穏やかな天気恵まれ、初日の出や初詣にお出かけになられた方も多かったことでしょう。私は、桜島にかかる初日の出を拝みました。前日と変わらぬ光景ですが、清々しく有難い気持ちになりました。

昨年は、「しおさい会セミナー」を実施いたしました。毎回、現役やOBの保健師に協力いただいておりますが、今回も様々な切り口から学生と語り交流を楽しみました。

また、今年は二年に一回の総会の年です。例年どおり城山観光ホテルで、八月五日に開催いたします。皆様とお会いできるのがとても楽しみです。前回の総会は、沢山のご出席をいただきました。今回も、皆さんに心ゆくまで楽しんでいただけるように趣向をこらした準備をしていきます。

さて、ご存じの方も多いかと思いますが、保健師養成課程の選択制により、平成二十四年度から十五名の養成となつていた鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻ですが、平成二十八年度入学生から四十名に拡大されました。第十六回しおさい会総会(二十三年八月六日)で、保健師養成数の拡大に向けて署名活動を行ったもののその数は増えず、当初は残念な思いをしましたので、この結果を心から喜んでいきます。今後も良い環境で質の高い保健師教育がなされるように、見守り支援していきたいものです。

THE CAREER

鹿児島大学医学部
地域看護・看護情報学講座

准教授 米増 直美

しおさい会の皆様、こんにちは。平成二十八年一月一日付けで着任しました米増直美と申します。加治木高校卒業後千葉県、岐阜県、アメリカと渡り、三十年ぶりに（始良市）加治木町住民となりました。

大学卒業後千葉県の市町村で保健師を経験しました。五年間という短い経験ですが、政令指定都市保健所の配属になり、私の担当地区では保健所業務も市町村業務も実施していたので、多岐に渡る経験ができました。介護保険はもちろんのこと訪問看護制度もほんの僅かしかなかった時代、老人保健法による保健事業全盛期で、寝たきり老人（当時



書道が趣味

「。と言われました
 どういうことかと
 いうと、住民から
 「保健師さん、保
 健師さん」と声を
 かけられ、保健所
 に帰ろうと思つて
 も住民から呼び止
 められるために保
 健所に戻れないよ
 うな保健師、とい

すよ)の家庭訪問も、精神障害者、結核・難病患者の家庭訪問も経験させていただきました。現在よりもずっと保健事業も全体の業務量も少なかったですし、新人保健師に任される業務も少なかったもので、個別援助にかける時間も多くあったと思います。毎月事例検討をしたり、地区活動についても担当保健師で集まって地区診断、地区活動計画もじっくり話し合う余裕があったなあと思います。いつも学生には最初に話をするのですが、当時、保健所長から「保健師たるもの、いったん担当地区に出たら、なかなか保健所に帰れない保健師になるように。」と言われました。



フィリピン研修（一番左）

すが、亡くなられ、その後熱心に介護をしていた夫（祖父）がどうしているかずつと気になつていた方でした。しばらく一緒に立ち話に参加しつつその後の状況把握をし、「またね」と言つてさらに自転車に乗つて帰る道今後は民生委員さんから「保健婦さん」と呼び止められました。民生委員さんとはある独居の認知症高齢者支援で協同した方で、そ

経験は古いし、短い期間だけです。が、教員になってから保健師さんをはじめ診療所看護師さんや訪問看護師さん等、看護職の皆様と共同研究として一緒に取り組むことで、多くの看護実践と学ばせていただきました。鹿児島県出身でありながら鹿児島のこととは知らないことも多く、今年学生実習で種子島に行くまでは鹿児島県の離島にも行ったことがありませんでした。鹿児島県の保健師活動のことをもっと学び、よりよい看護実践のために少しでも役に立ちたいと

思っております。

しおさい会の皆様、どうぞよろしくお願いします。お氣軽にお声かけくださいませ。

う意味です。「そんな保健師になれるのかなあ?」と思いつながら家庭訪問を続けていたある日、ちょうど新ゴールドプラン策定に向けての実態調査があり、担当地区内の新たな寝たきり老人を把握し、調査訪問に出かけました。介護負担や市の保健福祉サービスに対する不満等をたくさん訴えられ、少々落ち込みぎみの自転車での帰り道、立ち話をしている二組のお母さんと子どもに出会いました。一組は三歳事後フォローで把握し、その後も第二子のことでも相談に対応していた方、もう一組はお子さんの祖母に当たる方がリウマチで寝たきりだったので家庭訪問をしていたので

の方のその後のこと、民生委員さんから気軽に相談も受けました。近所には家庭訪問する約やつと保健所に帰りました。要介護者支援のあり方については課題を突きつけられたような訪問ではありましたが、一方では地区担当として顔が知られ、相談が持ち込まれるようになり、「なかなか保健所に帰れない保健師」に近づけてとてもうれしい瞬間でした。

その後は大学院を経て大学の教員となりました。私の実践



総合テーマ実習にて学生と in 種子島
(右から 3 番目)

近況報告

私のチャレンジ

Q-ACCT(キューアクト)活動

笹川 純子(S53年卒)

新天地での生活が始まり早七ヶ月。住めば都で北九州も住み良い街です。

38年間、県の保健師として精神保健活動にかかわる中で、精神障害者は入院の繰り返しや問題行動を起こす、長期入院するなどの課題があると感じていました。退職前に在籍していた県庁障害福祉課の時、「精神障害者アウトリーチモデル事業」が鹿児島市で展開されており、「たとえ問題行動のある患者であっても、その人のストレングス(希望や長所)に着目し、丁寧に関わることに

により問題行動も影を潜めていく」という報告があり、「私の目指すものはこれだ!」と、二十八年三月、鹿児島県を定年退職と同時に、「Q-ACCT北九州」に飛び込みました。少し「ACCT」の話をしましょう。一般的に「アクト」と呼ばれていますが、Assertive Community Treatmentの頭文字を略した言葉であり、日本では包括型地域生活支援プログラムと訳されています。

このプログラムは重度の精神障害者であっても、住み慣れた場所で安心して生活が送れるように医療・福祉・就労を含めた生活支援全般を行うものです。

具体的には、保健師・看護師・精神保健福祉士、作業療法士、精神科医、ピアスタッフなど、多職種がチームを組み24時間365日、生活の場を訪問し、服薬支援や生活支援を本人・家族に行っています。

ACCTの対象者は、重度の精神障害者で、主に統合失調症、感情障害等ですが、ひきこもりや発達障害の方も多く、丁寧に構造化する関わりが求められています。現在、Q(九州)

ACCT北九州は六人のチームで支援していますが、毎朝1時間のミーティング、週1回はカンファレンス等を行い、共通認識のもとに動きます。

また、医者不在のチームなので、医療機関との連携は重要で、さらに行政、福祉事業所等との連携も欠かせません。最近担当した方は、幻覚妄想があり、措置入院を含め頻回の入院歴があります。Q-ACCTが365日の訪問で服薬支援、生活支援を行うとともに、主治医、行政、後見人、B型作業所、ヘルパー等との連携をとり、現在も入院することなく地域での生活が維持できています。日々変化に富んでいて問題も起きますが、支援目標をストレングス視点で、「本人の望む幸福」とし、本人の希望に寄り添いながら支援しています。



私の課題は、長年、培ってきたはずの保健指導です。ついつい、指導してしまう自分があります。ストレングスを生かす本人の思いに寄り添う、ことへの切り換えに苦慮しつつ訪問支援を続けています。何でも対等に話し合えるチームの仲間が今の私の支えです。新しい環境の中で行政では経験できなかったことも多く充実した毎日を送っています。



鹿児島県厚生連健康管理センター

小村 愛美(H27年卒)

私は、平成二十八年四月から鹿児島県厚生連健康管理センターで、保健師として働くことになりました。四月一日、念願の保健師になった喜びと、いよいよ社会人として働くことへの不安を抱きながら入社式に臨みました。

私が保健師になろうと、心に決めたのは大学生になってからでした。大学の授業や実習で愛の姿から、なんて素晴らしい職業なんだ!と感銘を受けたことを今でも覚えていてます。加えて、地域の方々から私が受けた沢山の心温まる恩恵を今度は保健師として、私からお返しをしたいと思ったからです。

実際に保健師となった今、私は地域の方々、また働く世代の

方々の健康を守るために日々頑張っています。日常の業務としては、主に施設健診や人間ドック、巡回健診を行っています。

巡回健診では、問診や採血、健診後の結果説明会などを行います。実際に、住民の方々と接し、様々な地域へいく事で、それぞれの地域の特性に触れることができます。また、結果報告会で健康の話を真剣に聞いてくださる姿を見たり、運動を頑張っていることを教えてくださることをとてもうれしく思います。

学生の時には思いもよらなかった地域の方々との双方向性のコミュニケーションがあり、それが地域の方々の健康を維持し、よりよくしていくためにも大切なのだと改めて感じました。学生として今まで机の上で学んだことに加えて、これからは先輩方からのご教授などを通して、日々学んでいきたいと思っています。そして、健康で暮らし続けたいという地域の方々の思いを少しでも手助けができるように、また働く世代の方々が元気で仕事ができるような手助けができるよう、これからも努力していきたいと思っています。まだまだ、必要な知識や技術が身についておりませんが、大好きな鹿児島県の方々の健康を守りたいという思いを胸に頑張っていきたいです。

第7回

しおさい会セミナー報告

平成28年5月14日(土)、鹿児島大学医学部保健学科 地域老年・看護実習室で開催された第7回セミナーは、一年生や複数の男子学生のほか、会員外の保健師等、いつもに増して多彩な顔ぶれとなりました。百人超の参加者は13のグループに分かれ、学生と会員が同じ机を囲み、教室は一杯になりました。

「発表1」では、「鹿児島で歩む保健師の道」という題で、鹿児島県川薩保健所に勤務する石野友希保健師(平成21年卒)が、学生時代に奄美大島で出会った住民の温かさから保健師を目指したこと、新人期の平成21年、23年までを過ごした徳之島保健所での保健活動、中堅期の県保健所ならではの本庁勤務、そして現在の保健所勤務と、その過程を通して地域で働く保健師の魅力について写真を交えてお話されました。

徳之島保健所では、三つの島を管轄する中で島ごとに異なる文化・生活・住民性の違いが見えてきたこと、島に行くとき必ず同伴訪問し、新任保健師に対しても対等に接してくださった町の先輩保健師さんのこと、発達



徳之島の海岸で。牛の散歩中??

が気になる子供たちのフォローの場が欲しいという地域の課題を共有し、月一回の療育検討会の開催や町の親子教室の開催に向けて町の保健師と協働した活動のほか、島のお産を守りたい助産師や歯科衛生士、精神障害者の家族会の方などから、地域を支える熱い思いを受け止め、中心にはいつも住民がいる、地域を支えることは住民を支えることだという大きな学びを話していただきました。また、この時経験した被災地支援活動では、日々変化する被災者の課題への

対応や自身の健康管理など、多くの課題を感じられたとの事でした。

その後の本庁勤務は、看護との出会いと保健師としての分岐点との事でした。対象が地域住民から看護職員や養成所になわつたけど、保健師としての視点は生かせるかと前向きに考えながらも「しなければならぬ」に追われる日々の中で、自信がなくなり目標を見失うこともあり、地元に戻り市の保健師として活動したいとの気持ちにかられた事もあったそうです。そんな時、尊敬する先輩から「あなたはあなたのままでいいんだよ」「他の県保健師が(自分の)地元の事を思わずに仕事をしていると思う?」と言われ、「離島も含めた鹿児島県全体への恩返し、地元への還元は県保健師(の立場)でもできる」と捉え直したそうです。誰にも「辞めたい」と思う事はあると思うが、恩師、保健師の先輩・後輩、職場の先輩・同僚、そして今まで出会った地域の方々に支えられている思いが、自分自身を支える基盤になると話されました。



現在は川薩保健所で難病対策を担当し、保健師の仕事は対象者一人一人が持つ人生の物語の一部に関わることができると幸せな仕事である、と話され大変充実した仕事ぶりを伺うことができました。「地域で働く魅力」についてまとめて下さいました。

「発表2」は、「熊本大地震災害支援に参加して」というテーマでした。当初は、鹿児島市の前野保健師に発表していただく予定でしたが、熊本震災派遣の為、登壇できなくなり、急遽、震災派遣から帰ってきたばかりの同市の末吉紀子(昭和61年卒)・田中博美(平成21年卒)保健師に報告して頂きました。

臨機応変に対応できることも、しおさい会の強みと実感いたしました。

鹿児島市では、4月20日、6月1日に、七班の健康支援チームが、熊本市東区の後方支援に入ったそうです。お二人は第二班として4月26日、5月2日まで、各避難所の健康チェック、相談業務等に従事されたとの事。前半は指定された市営・県営住宅の全戸を訪問し、住民の生の声を聞き、地震の凄さや住民の不安・恐怖がより伝わってきたそうです。そんな中、住民自らが協力し合い何とかこの困難を乗り越えようとされていることを目の当たりにし、地域の力はこんな時にこそ発揮されるのだと実感されたそうです。派遣の後半は、避難所の縮小に伴う世帯調査のため避難所を巡回し、健康相談に加え、必要な方を福祉避難所につないだりボランティアを紹介する等されたとの事。避難所生活をされている方の中には鹿児島出身者も多く、かごつま弁に涙する方も。「遠くからありがとね、頑張つてね」と逆に励まされ、末吉保健師は心通じ合えた一瞬を感じ、保健師をしていてよかったと心から思えたそうです。

田中保健師は災害支援を通じて大切だと感じた3つの力について話されました。

一つ目は「支援者同士のチー



鹿児島市の公用車の前で。人も物品もせて熊本市入り。

左：田中保健師。右：末吉保健師

「ムワーク」です。被災地には保健師2名、事務職員1名、運転技師1名の計4名が一チームとなり、一週間交代で派遣され、戸別訪問や避難所巡回、要支援者の把握などにあたられたそうです。慣れない土地で大変な状況下においても、保健師の活動ができたのは、宿泊場所の確保や様々な調整をしてくれた事務の方や、地震でひび割れた道の運転をしてくれた運転手の協力があったからこそとの事。そして、熊本市の地区担当保健師や、同じように派遣されてきた他自治体の派遣チームとも協力して活動されたそうです。

二つ目は「自分で考える力」です。お二人が熊本に行かれたのは、地震発生から二週間も経たない時期で、被災地ではまだ余震が続く、ライフラインもつながっていない地域もあったそうです。住民の多くが疲れやストレスを感じており、また、熊本市の地区担当保健師も自らが被災していたそうです。そのため、被災地職員から指示を待つだけの受け身の姿勢ではなく、時間とともに変化していく住民のニーズや健康課題を自らも考え、与えられた役割をきちんと理解した上で、活動できる力が大事だと感じられたとの事。

三つ目は「情報を集約し、発信する力」です。派遣チームは、戸別訪問や避難所巡回、要支援者の把握によつて集めた情報を、地区担当保健師に報告します。被災地では、刻々と変化する住民の状況にあわせて、行政の対応も変化するため、中には福祉避難所についての情報を知らない要支援者もあり、住民に情報を伝えることの難しさも感じたそうです。情報を集約し、情報を発信することにより、支援が必要な人を関係機関に「つながる」という役割の大切さを感じられたそうです。

災害時には、日頃からの物品等の備えだけでなく、町内会などの地区組織とのつながりも必要だと感じられたそうで、今後、住民のために活動できる保健師になりたいとお話しされました。

三人の保健師の発表の後、各テーブルでは熱心な意見交換となり、時間はあっという間に過ぎていきました。

◇101名（ 学生59名 会員等42名 ） の声・・・

学生の声

- ◎保健師さんだけでなく、私の班には助産師さんもいらっしゃったので 2 つの職の方々からお話をきくことができたら勉強になった。
- ◎パワーポイントが分りやすかった。その後のグループでの意見交換などでさまざまな年代の方からお話を聞くことができ、刺激を受けてばかりでした。
- ◎保健師現役の方のお話がわかりやすかった。
- ◎現役の保健師さんのお話を聞くことができ、保健師の仕事や活動について知識の幅を広げることができた。印象的なセミナーでした。
- ◎私は 1 年生でまだ何もわからなかったけどこの会に参加して生の声を聞くことができ、本当に良かった。
- ◎またこのような交流や話を聞く機会があったら是非参加したい。
- ◎今回、保健師に興味があって参加。まだ迷っている（看護師にするか）ので良い参考になった。
- ◎新たな出会いからつながりができとてもすてきな時間を過ごすことができました。
- ◎人と人をつなぐ保健師さん、行政の保健師の仕事にとっても興味がわきました。

会員等の声

- ◎教科書だけでは分からない生の声が聞けて良かった。これから先輩方のような保健師になれるようがんばっていききたい。感謝。
- ◎自分自身を振り返ることができた良い機会だった。大学の頃、何をどう考えたかなあ・・・あの頃悩んでいた自分にメッセージを送る気持ちでグループワークに参加させていただいた。感謝。
- ◎この研修を企画してくださった方々、他学校卒の新卒保健師も研修に参加させてくださり感謝。しおさい会の懐の大きさを感じた。
- ◎県や産業保健の方とも話せてよかった。
- ◎私自身感じたこと：後輩達が育って嬉しかった。
- ◎私の頃よりはるかに保健師に対して意欲的な学生さんが多いなと印象を受けました。現役・OG さんの話を聞けるのはとてもいい機会だと思う。
- ◎男子学生の参加が嬉しかった。
- ◎後輩達ががんばっていることに元気をもらった。
- ◎8 年目にあんな風になれるのかな・・・と不安になりつつ尊敬するばかりだった。熊本支援にしっかりと目的・役割をもっていきたいと思った。
- ◎若い方々、学生さんの継続、力の大きさを痛感した。
- ◎学生さんの前向きな姿勢、初心を思い出した。
- ◎1 年生、2 年生、3 年生、それぞれに講演の受け取り方に違いが見られ、ほほえましかった。悩みつつ進路を決めていってほしいと思う。
- ◎テーブル配置など運営、ご苦労様。

その他・工夫して欲しかった点として、「もっとグループワークの時間が欲しい」との意見がありました。

◆ 学生 notes

働く場所が違おうと業務も多少違おうが、看護の心、地域の人を中心に動く、寄り添うといった思いの根っこは同じだった

保健師は対象が地域全体と広くイメージがつきにくいけど…支援が必要な人を見つけてつなぐ。看護師では、退院するためにはどうしたらよいかという視点になりやすい(と思っていた)が、(看護の世界は)それだけではないのだと学べた

地域で仕事をしていくことが自分を育ててくれることだと教えていただいた

地域に関わり、住民に支えられる保健師は自分の想像以上にすごい職業だと思った

病院といった特別な空間ではなく、人々の暮らしに入り込んで対象を見て支援していくので、その方がどのような人なのか、どのような生活をしているのかなどを感じとり、総合的にアセスメントすることが必要になるのだと改めて思った

地域で働くことがとても楽しそうだった。地域に入っていく、伝統や文化に親しむことが面白そう!

保健師は住民全体を考えて行動することが大切なのだったと思った

患者さんの退院後の生活も考える仕事内容に憧れを持ちました

(保健師として) 母の働いている姿を見て、実際に地域の方と話してみても興味を持ちました。先輩方が一人ひとりに寄り添っているケアを知り、私もそうなりたと思いました

保健師は本当に地域とつながっている仕事だと感じた。様々な役割があって、みなさん誇りを持って仕事をされていてすごいと思った

◆ 気づき&学び notes セミナー覚え書き (^^)

～思いの根っこは同じ～

左右のページは、セミナーを通して生まれた「語り」のひとつです。今回、参加者一人ひとりが、それぞれに感じたことや考えたことを率直に表現しながら語り合う時間を多くとりました。セミナーを終えてみると、付箋紙やアンケートには実に多くの思いが語られていました。

学生や社会人が垣根を超えて、ざっくばらんに語り合える温かなひとときとなりました。

保健師の仕事は健康増進のために「何かしてあげる側」という印象があったが、他の人につなげたり、地域の人に教えられたりするという話を聞いて、より保健師を目指す気持ちが深まった。これからも知識を深め、視野を広げたい



私は今回初めてしおさい会セミナーに参加させて頂きました。当日は百名を超える方が参加され、保健師の方とはもちろん、学生の中でも学年を問わず交流することができました。このセミナーの全体テーマは「地域看護の醍醐味」であり、保健師さんなどのように住民の中に入り込んでいくのか以前から疑問に思っていた私にとつて非常に興味深いものでした。まず、石野保健師より「鹿児島で歩む保健師の道」というテーマで講演をいただきました。県保健師としての離島での保健活動や奄美豪雨災害・東日本大震災での支援活動、県庁での勤務など様々な経験をもとに話を伺いました。一番印象に残ったのは離島での保健活動についてです。先輩は、島には異なる文化が存在し、それを理解することが大切であるとおっしゃっていました。自分の生活や価値観を軸にするのではなく、その土地に暮らす



看護学専攻三年

西野 真生

「セミナーに参加して」

す住民の背景を理解し、保健活動に生かしていくことの重要性を学ぶことができました。次に末吉・田中保健師より「熊本地震災害支援に参加して」というテーマで講演を頂きました。災害支援の際に大切なのはチームワーク・自分だけで動く力・情報を集めて発信できる力の三つがあると話されており、「見る・繋ぐ・動かす」という保健師の役割が被災地を支えることに繋がっているということを学びました。講演の後はグループに分かれ、保健師という仕事に懸ける思いや保健師とは何かなどをそれぞれの保健師さんの体験を交えながら何うことができました。私のグループの保健師さんは、一度にその人の暮らしを知ろうとせず、少しずつ知っていくことや一人の生活を物語として捉えることが大切だとおっしゃっていました。三年生の後期からはローテーション実習が始まり、保健センターで実習させていただく機会もあるので、どのように地域を捉えるのか自分の目でしっかりと学んでいきたいです。セミナーに参加した自分の仕事に信念を持って、将来自分が目指す保健師像をより明確にすることができました。今回はこのように貴重な機会を作っていただき、本当にありがとうございました。

◆ 社会人（会員・非会員ともに）notes

後輩たちがそれぞれの職場で頑張っていることに感動

人の一生の様々な場面にかかわることができる（仕事である）。人としての力をつけたい

保健師人生 25 年経ちましたが、大好きな保健師魂を全うしたい

様々な地域をめぐる職業のため、地域性、住民性を感じる。今やっていることは必ず将来につながる

全てのライフステージに関わることができるのがとてもうれしい

4月から保健師をはじめて、看護師として働いていた日々と比べて迷いの中、先輩方の話や経験談や、仕事の素晴らしさを聞いてよかったです

保健師としてできること、自分がなぜ（保健師に）なりたかったのか、改めて考えることができました



保健師の役割が時代によって変化していること再確認

保健師の魅力ややりがいは、時代の要請に対応していくこと

保健師は時代が変わっても人々の生活を見ている。その人々が選べるように援助する

私にとって保健師は人生。素敵な保健師、人との出会いが自分を成長させてくれた心の支え

保健師も人である。一喜一憂しながら地域で生きる「人間くささ」を大事にしたい

保健師になってからの活動を振り返る機会になった。目標や目的、自分が働いている意味が見つからなくて辛いことも多い。地域での出会いを一つ一つ大切に、今できることを丁寧に頑張りたい。生き生きと自分の活動を語ることでできる保健師になりたい

保健師は、その人がその人らしく住み慣れた場所で暮らしていけるように一緒に取り組んでいく

保健師は、社会の中でますます重要な役割を期待されてきている。やりがいがある

今日出会えて語れた仲間感謝

講演に関しては、石野保健師からのお話で特に印象に残っているのは、「中心にはいつも住民がいる。地域を支えることは住民を支えること」という先輩ご自身の地域を支える熱い思いでした。何より住民に寄り添うことが大切だと学びました。また、末吉・田中保健師からは、熊本地震災害支援に参加された活動についての話を伺い、チームワークの大切さや自分で考えて行動する力、情報を集めて発信する、物的備えだけでなく人の

第七回しおさい会セミナーに参加させていただきました。先輩方、各学年の学生間の交流を通してお話ができるだけでなく、看護学のつながりを通して卒業生の方から講演や現場でのお話を直接聴くことができ、保健師についてより知ることができたように思います。



「セミナーに参加して」
看護学専攻三年生
和辻 雄仁

【後日談】セミナーでつながった学校の先輩方と騎射場で開催された地域住民の方とのイベントに参加してきました。住民を知るためには実際にその地域に出向き多くの住民の方とお話をする、「保健師は冒険家である」として授業で聞きました。先輩と参加したイベントはその地域の住民の方々とお話をきつかけになり、看護とはまさにこういう経験になりました。

今回、二年に一度のセミナーに参加できたことに感謝しています。そして二年後、しおさい会の先輩方とまたお会いすることを楽しみにしています！お忙しい中、先輩方、本当にありがとうございました。

つながりの備えが大事だと学びました。東日本大震災や熊本地震を通して、改めて保健師の活躍も多く耳にし、看護職が病院という場だけでなくその役割が求められていることを聞く、改めて看護のすごさを感じ、感動します。僕は、まだまだ看護に関して勉強不足です。看護職は一生勉強であるため、大学生活を終えて現場に出てからも学んでいくことはたくさんあると学びましたが、残り二年の大学生活、セミナーでのご縁も生かしながら進取の精神で様々なことに挑戦し、もっと看護に魅了されたいです。

職場紹介

～鹿児島県民の健康を支える拠点として～
公益財団法人鹿児島県民総合保健センター

黒木 晶子（日2年卒）

当センターは、県民の健康管理と保持増進を図ることを目的に1984年11月に鹿児島県・鹿児島県医師会・結核予防会鹿児島県支部・鹿児島県成人病予防協会の四者により設立。

1986年4月「県民の健康を守る拠点施設」として「県民総合保健センター」が開設され、各種健（検）診・外来精密検診・健康普及啓発・その他の事業を行っております。

保健師は、本所の総務部や健康増進部、集団健診部、鹿屋市にある県民健康プラザ健康増進センターに職員及び嘱託等を含め二十六名が配置されています。（内、しおさい会員が七名）

主な業務は、地域・職域及び施設で行っている健（検）診の精度管理、特定保健指導等の保健指導、健康相談や講演、健康教室等による健康普及啓発です。

精度管理においては、受診者に安心して安全な健（検）診を受診いただくよう、鹿児島県生活習慣病検診等管理協議会の各部会の指導の元、プロセス評価の維持向上に努めています。

保健指導においては、コーチングやコミュニケーション



ン理論等の研修を重ね、対象者が自ら健康行動を起こすことができるよう、行動変容を促す支援に取り組み、大きな成果が得られていることを実感しています。当センターのこのような保健指導の取り組みを評価していただき、ここ数年保健指導力アップに向けた研修会や講義等の派遣依頼も年々増えています。

健康普及啓発においては、健診に伴う健康づくりへの取組みだけでなく、後期高齢者医療広域連合から委託された「高齢者元気づくり事業」も8年目を迎え、県内各地で心と体のセルフケアを展開し、多くの高齢者から好評を得ています。その経験から、現在鹿児島県からの委託を受け、鹿児島県介護予防事業推進班としての活動も行っています。

また、2015年12月1日から事業者によるストレスチェックの実施が義務化されましたが、当センターでは2009年からメンタルヘルス健診やメンタルヘルス研修会を実施している実績が評価され、益々、メンタルヘルスに係る保健相談や講師派遣依頼が増える方向にあります。

私たち健診機関に勤める保健師は、「予防にまさる治療はない」という理念の元、地域・職域等の各領域での質の向上に加え、新たな取り組みにも対応すべく体制を整え、今後とも関係各所との連携を図りながら県民の健康を支えていきます。

新入会員紹介

平成28年 鹿児島大学医学部保健学科
看護学専攻卒業生 しおさい会入会者



編集後記

◇今号は主にしおさい会セミナーの様子をまとめて会報にしました。参加者の声をまとめると、勉強になることばかり…。皆様の感想・生の声で役員も元気をもらいます。

◇四月で、熊本地震から1年を迎えます。月日の流れは早いものです。熊本の皆様の健康と一日も早い復興を心からお祈りします。

◇総会のご案内を往復はぎでお知らせします。総会後の研修会はどなたでも参加できますので、是非身近な方々もお誘いください。

（文責 田中）

事務局からのお知らせ

○ホームページ立ち上げに向け、本格的に検討を始めています。総会の時に具体的に情報提供できると思います。乞うご期待!!
（ホームページ検討部会一同）